

## 学びのスクランブル交差点

提案者： 永末康介（北九州市立大学 基盤教育センター）

プロジェクトの目的（解決したい課題など）

SDGs全体の達成のためには、未来社会を支える人材育成が不可欠である。その社会課題解決に向けて、教員に加えそれ以外の人たちが協同して教育に関して対話や交流できる場を作ることが一義的な目的である。そして、その場における学びを教育現場に還元させて、これからの若者などがより良い「市民」（future-ready “citizen”）になるように手助けすることを使命としたい。

関連するゴール 4. 質の高い教育をみんなに 8. 働きがいも経済成長に 17. パートナーシップで目標を達成しよう

### 活動概要

- ① ワークショップなどを含む情報交流会 [年数回]  
（教育に関する情報交換 [ex. 「総合的な探究の時間」、高大接続、産学連携] や、企業などから教育機関に向けたSDGsを活用した教育コンテンツなどの紹介）
- ② 教育機関でのSDGs関連教育 [通年]  
（①などで得られた知見を通じた学習者に向けた教育の提供）
- ③ 成果報告会 [2～3月予定]  
（各教育機関などでの教育活動や②で得られた学習者の成果を披露する場）

成果・数値目標 2020年度の成果発表会での参加団体数：30団体（教育機関含む）

## 北九州SDGsクラブ プロジェクトチーム 実施計画書

提案者名	永末康介（北九州市立大学 基盤教育センター）
プロジェクト名	学びのスクランブル交差点

## 1. プロジェクトの概要

① 目的 (解決したい課題など)	<p>・SDGs全体の達成のためには、未来社会を支える人材育成が不可欠である。教育機関はもちろんそれを越えた立場の人たちの支援を受けて、産学官民が交わりながらそのような「教育」を行えるようにしたい、というのが解決したい課題である。その課題を踏まえ、以下の(1)-(2)を目的として、「教育により、未来社会を支える『市民』(future-ready “citizen” )を支援する」ことを使命としたい。</p> <p>(1) 教育に関して対話や交流をするための公共の場を提供すること [一義的な目的]（そのために、教育機関同士また教育機関と企業・団体・市民をつなげるための「接着剤」としてSDGsを活用したい。）</p> <p>(2) その場における学びを教育現場などに還元させること</p> <p>・なお、中長期的には、教育関係者にとっての「第3の場所（サードプレイス）」的な場が持続可能な地域づくりとどう関わることができるのかを探索したい。</p>
② 達成したい SDGsのゴール	<p>4「質の高い教育をみんなに」 8「働きがいも経済成長も」 17「パートナーシップで目標を達成しよう」</p>
③ 具体的な活動内容	<p>【活動1】情報交流会（ワークショップなど含む）（年に数回）（公共の会議施設または北九州市立大学） 高校での「総合的な探究の時間」などに関する教育機関同士の情報交換や、企業や団体から教育機関に向けたSDGsを活用した教育コンテンツなどの紹介（別プロジェクトにおける成果を含む）。</p> <p>【活動2】教育機関でのSDGsに関連した教育（通年）（各教育機関） 上述「活動1」などで得られた知見を通じた、児童・生徒・学生（以下、学習者という。）に向けた教育の提供。</p> <p>【活動3】学習者などによる成果報告会（2～3月に開催予定）（公共のホールまたは北九州市立大学） 各教育機関での教育や上述「活動2」を通じて得られた学習者の成果を披露する機会。</p> <p>これらを通じて、SDGsを接着剤とした通常ではできないような強固な教育コミュニティの形成を目指したい。</p>

④ 活動による成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交流会を通じた参加者の学びやその発信（活動1）</li> <li>・学習者の学びやその発信（活動2）</li> <li>・成果発表会での成果物（活動3）</li> </ul>
⑤ 数値目標	2020年度の成果発表会での参加団体数（教育機関含む） ：目標 30 団体
⑥ 資金・物資計画	成果発表会（成果物作成）に係る会場費・人件費・備品など 招聘講師への謝礼 視察などのための交通費・宿泊費など

## 2. 参加メンバーへの期待

① 参加してほしいメンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前述の「目的」や「使命」に共感して一緒に運営などを行ってくれる方</li> <li>・教育機関（教育関係者）</li> <li>・教育を受けたい人を応援したい企業・団体</li> <li>・別の北九州 SDGs クラブプロジェクトチームのメンバー</li> </ul>
② 想定しているメンバー数	特になし
③ メンバーへの期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人（あるいは所属機関）の成功だけでなく、プロジェクト全体の成功に貢献する意欲をお持ちの方に参加いただくことを期待しています。</li> <li>・多くの教育関係者（初等・中等・高等教育）にご参加いただき、所属教育機関を越えた活躍を期待しています。</li> <li>・教育機関と関わりに興味のある企業や団体にご参加いただき、教育機関に貢献していただくことを期待しています。</li> <li>・他の北九州 SDGs クラブプロジェクトチームのメンバーにご参加いただき、各取組を報告するなどしていただくことを期待しています。</li> </ul>

### 3. 実施スケジュール（概要）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動1	 情報交流会 （年数回、公共の会議施設または北九州市立大学で開催予定）											
活動2	 教育機関でのSDGsに関連した教育 （通年、各教育機関にて開催）											
活動3											▲	
											成果発表会 （2-3月ごろ開催予定）	
その他											▲	
											【必須】 活動報告書の 提出（3月末）	

※活動が複数ある場合は、活動1、活動2…として記載してください

※スケジュールの詳細な資料がある場合は、別途ご提出ください。

#### 4. その他特記事項

① その他特記事項	・いろいろな「タレント」を持った方々が集まり協同しながら、意義深いプロジェクトにしたいと願っています。よろしくご支援お願いいたします。
-----------	---

#### 5. 連絡窓口

企業・団体名	公立大学法人 北九州市立大学
部 署	基盤教育センター
担当者名	永末康介
電話番号	093-964-4345
メールアドレス	kosuke@kitakyu-u.ac.jp